

令和6年度 社会福祉法人大阪障害者自立支援協会事業報告

はじめに

当法人は、第1種社会福祉事業及び第2種社会福祉事業を行うとともに公益を目的とする事業などを実施し、福祉サービスの利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、地域社会において自立した日常生活を営むことができるよう支援している。

令和6年度は、社会全体がコロナ禍から正常化していくなか、当法人各事業においても感染防止に配慮しながら事業を推進し、安定した法人運営に取り組んだ。

大阪ワークセンターにおいては、利用者の確保に向け、支援学校や関係機関等への積極的な広報・営業活動を進めるとともに、定員の見直し等を行うなど経営改善に努めた。

当法人の事業基盤をなすケアハウス・OSAKA 歓の里においては、適切なサービスを提供し、満床経営を維持した。令和5年度から始めた老人短期入所事業は、デイサービス等と連携させることで、高い利用率を維持できた。

大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター及び大阪府ITステーションについては、「大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター運営事業体」の代表法人として関係団体等と連携しながら施設を管理運営するとともに、盲ろう者等の支援事業や障がい者の就労促進事業を適正に実施した。また、令和7年度以降の指定管理者に、引き続き指定された。

国際障害者交流センターについては、施設利用が順調に回復し、売り上げはコロナ禍前を上回った。

これらの事業実施により、地域社会に貢献するとともに、障がい者、高齢者の自立した生活支援や地域福祉の推進に努めた。

1 組織及び職員体制（令和7年3月31日現在）

単位：人

役員		理事 6			監事 2		
評議員		7					
理事長		1					
常務理事		2（職員兼務）					
職員		正職員	うち兼務	準職員	うち兼務	計	常勤換算
	法人本部	3		1	（ 1）	4（ 1）	－
	大阪ワークセンター	7	（ 1）	15		22（ 1）	16.6
	大阪ワーク相談支援センター	3	（ 3）	1	（ 1）	4（ 4）	2.0
	ケアハウス・OSAKA 歓の里	9	（ 1）	22	（ 1）	31（ 2）	15.1
	歓の里ショートステイ	8	（ 8）	16	（16）	24（24）	
	歓の里デイサービスセンター	2	（ 1）	15	（ 1）	17（ 2）	7.5
	歓の里ケアプランセンター	4	（ 1）			4（ 1）	3.0
	盲ろう者等社会参加支援センター	1		8		9	－
	大阪府 I Tステーション	5	（ 2）	9	（ 1）	14（ 3）	－
	国際障害者交流センター	1		1		2	－
	小計	43	（17）	88	（21）	131（38）	－
	合計		（兼務を除く役職員）				

2 第1種社会福祉事業

(1) 障害者支援施設「大阪ワークセンター」の経営

① 概要

大阪ワークセンターでは、障害者総合支援法が規定する障害福祉サービスのうち、生活介護、就労継続支援B型、施設入所支援及び空床型短期入所の各事業を行っている。

経営改善が大きな課題となっていることから、定員に満たないサービス事業について、支援学校や関係機関等に対する積極的な広報・営業活動等を展開したほか、定員を見直すなど、経営の安定化に努めた。

② 利用状況

利用状況については、各サービス事業の利用者数及び平均利用者数、延べ利用者数及び利用率を次ページに示している。

各サービス事業の平均利用者数を令和5年度と比較すると、生活介護は0.6人、就労継続支援B型は1.8人減少した一方、施設入所は0.2人、短期入所は0.1人増加した。

利用率を令和5年度と比較すると、生活介護は5.9ポイント減少したが、就労継続支援B型は1.9ポイント、施設入所は1.3ポイント、短期入所は5.9ポイント増加した。

③ 取組み状況

定員を満たしていなかった各サービス事業について、施設の優位性や地理的利便性を紹介したリーフレットを作成し、泉州地域の社会福祉協議会や相談支援事業所、特別支援学校等に対して広報活動を展開するとともに、支援学校での施設説明会の場を活用した広報・営業活動や夏休みの施設体験実習を積極的に受け入れることにより、利用者を確保し定員充足に努めた。

なお、就労継続支援B型事業については、長引くコロナ禍の影響等により、定員に満たない状況が続いたため、令和7年1月から定員を50名から30名に減らし、利用率向上と収支改善を図った。

職員の専門性の向上に向けては、オンラインにより幹部職員が職員研修に参加し、職員会議等で職員全体に伝達研修を実施するとともに、看護師を中心に新型コロナウイルス感染症防止対策に関する情報収集や情報共有のほか、職員・利用者への周知・実践に取り組んだ。

サービスの利用においては、利用者一人ひとりの適性・能力・意向等のニーズを適切に把握しながら、個別支援計画の定期的な見直しに基づく支援に努めた。

また、令和5年度に一元化を実施した、大阪ワークセンターと歓の里の厨房業務について円滑な運用を期したほか、両施設敷地内の立木竹の伐採整備についても、引き続き環境整備に努めた。

なお、前年度に引き続き、宵基金を活用して防水工事を実施するなど、建物老朽化対策を行った。

④ 苦情解決委員会

施設内に設置する苦情解決委員会における外部の第三者委員への苦情相談はなかった。

【障害福祉サービス事業実績】

項目	サービス事業		4月	5月	6月	7月	8月	9月	実績計	前年度 実績
	定員	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
利用者数（人）	生活介護	10	12	12	12	13	13	13	151	153
			13	13	12	12	15	11		
	就労継続B型	50 ↓ 30	40	40	40	37	37	37	457	469
			40	37	37	37	37	38		
	施設入所	18	15	15	15	15	15	15	180	180
			15	15	15	15	15	15		
	短期入所 （空床型）	—	2	2	2	2	2	1	21	15
			2	2	2	1	1	2		
平均利用者数（人）	生活介護	10	5.0	4.9	4.9	5.1	5.7	5.2	4.7	5.3
			5.5	4.5	3.6	4.1	4.1	4.0		
	就労継続B型	50 ↓ 30	28.2	24.6	28.2	26.2	26.0	26.8	26.7	28.5
			27.2	26.6	26.4	27.2	26.1	27.2		
	施設入所	18	13.3	12.5	13.0	13.5	13.3	12.7	12.9	12.7
			13.6	12.7	11.9	12.2	13.1	13.0		
	短期入所 （空床型）	—	0.8	0.5	0.9	0.7	0.6	0.7	0.5	0.4
			0.5	0.4	0.5	0.2	0.1	0.5		
延べ利用者数（人）	生活介護	10	105	83	98	112	113	98	1,124	1,286
			120	89	76	77	73	80		
	就労継続B型	50 ↓ 30	592	517	563	577	519	510	6,492	6,990
			599	532	554	516	470	543		
	施設入所	18	399	389	391	418	413	382	4,713	4,635
			423	380	369	377	368	404		
	短期入所 （空床型）	—	23	17	28	21	20	21	195	134
			15	11	14	5	4	16		
利用率（％）	生活介護	10	50.0	48.8	49.0	50.9	56.5	51.6	47.0	52.9
			54.5	44.5	36.2	40.5	40.6	40.0		
	就労継続B型	50 ↓ 30	56.4	49.2	56.3	52.5	51.9	53.7	59.0	57.1
			54.5	53.2	52.8	54.3	87.0	90.5		
	施設入所	18	73.9	69.7	72.4	74.9	74.0	70.7	71.7	70.4
			75.8	70.4	66.1	67.6	73.0	72.4		
	短期入所 （空床型）	—	25.6	18.3	31.1	22.6	21.5	23.3	17.8	11.9
			16.1	12.2	15.1	5.4	4.8	17.2		

※利用者数は、毎月初日現在の人数。

※施設入所サービスにおける平均利用者数及び延べ利用者数は、帰省や入院等で不在の日数は除いた数を計上。

※利用率＝延べ利用者数／定員×その月の稼働日数×100（以下、同じ）

※短期入所については「定員」は空き居室数とする。

※就労継続B型の定員は、令和6年12月まで50名、令和7年1月から30名。

(2) 軽費老人ホーム「ケアハウス・OSAKA 飲の里」の経営

① 入居者の状況

※ < >内は、前年度の実績

ケアハウスの令和6年4月から令和7年3月までの新規入居者は15人、退居者は15人で、3月末現在の入居者は50人、平均利用率は100%<100%>と、令和5年度から引き続き満床となった。

その内、特定施設入居者生活介護については、3月末までの平均入居者数は38.7人<40.0人>となった。

また、特定施設入居者生活介護の要支援者は3人、要介護者は37人で、要介護者の平均要介護度は2.59<2.43>と、令和5年度よりさらに上昇した。

【ケアハウス入居状況】 <<定員：50人>>

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年度 実績
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
入居者数（人）	50	50	50	50	50	50	600	600
	50	50	50	50	50	50		
平均入居者数（人）	50	50	50	50	50	50	50.0	50.0
	50	50	50	50	50	50		
延べ入居者数（人）	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	18,250	18,300
	1,550	1,500	1,550	1,550	1,400	1,550		
利用率（%）	100	100	100	100	100	100	100	100
	100	100	100	100	100	100		

※ 入居者数は、毎月初日現在の人数（以下、同じ）

【特定施設入居者生活介護状況】 <<定員：40人>>

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年度 実績
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
入居者数（人）	40	40	40	40	40	40	480	480
	40	40	40	40	40	40		
平均入居者数（人）	38.9	39.3	38.8	39.0	39.1	38.6	38.7	40
	39.3	38.0	37.5	37.6	38.8	39.9		
延べ入居者数（人）	1,166	1,217	1,163	1,208	1,213	1,157	14,133	14,600
	1,217	1,139	1,163	1,167	1,086	1,237		
利用率（%）	97.0	98.1	96.9	97.4	97.8	96.4	96.8	100
	98.1	94.9	93.8	94.1	97.0	99.8		

※ 特定施設入居者生活介護とは、特定の施設（有料老人ホーム、軽費老人ホームなど）に入居している要介護認定を受けた人が、介護保険の給付により日常生活上の食事、入浴、排泄等の介助を受けることができる介護サービス。

【特定施設入居者生活介護の要支援・要介護状況】 ≪定員：40人≫

単位：人

項 目	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	平均 要介護度
令和7年3月	2	1	9	10	7	9	2	40	2.59
令和6年3月	2	1	11	11	5	8	2	40	2.43

② サービスの状況

食事サービスについては、4月に栄養士が食事アンケートを実施し、その結果を踏まえて季節感のある献立やバイキングを取り入れるとともに、レクリエーションの一環としてパンケーキを焼いて提供し、食に対する楽しみを増やすなどサービスを充実した。

また、入居者懇談会を2ヶ月に1回開催し、施設からの報告やお知らせに加え、入居者からの意見を聞くなど施設の管理運営の参考とした。入居者からの質問事項への回答を含め、入居者懇談会議事録の掲示・配布を行った。

さらに、機能低下防止・予防を目的とした日々の体操を実施した上で、感染防止を徹底しながら、夏祭り、敬老祝賀会、紅葉散策やクリスマス会などを開催し、生活リズムの安定を図るとともにストレスを溜めることがないよう支援した。

③ 看護・介護の状況

看護面では介護職員の資質向上に重点を置き、年2回AEDの実演、実技の講習を行い、誰もが実施できるよう指導した。

夏季には熱中症予防のため、毎日全館放送により水分補給や室温調整等について注意喚起を行った結果、熱中症による入院等は生じなかった。

また、うがい・手洗いを徹底するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染対策マニュアルを踏まえた職員及び入居者への感染症防止対策、並びに施設における共用部の消毒・換気を徹底して行ったうえで、来訪者や家族の面会を緩和している。

大阪府社会福祉協議会が主催・共催する外部研修の介護職中堅研修、認知症介護実践リーダー研修、高齢者施設ケアマネジメント研修、老人部会施設研修、認知症ケア講習会などにも参加し職員の資質向上を図った。

また、歓の里各施設の職員からなる身体拘束廃止委員会、ハラスメント防止対策委員会及び虐待防止委員会を設置し、予防策の検討や研修等を実施した。

〔開催状況〕 4月24日(水)、7月24日(水)、9月25日(水)、1月22日(水)

④ 地域連携

地域との交流では、感染症対策を徹底しながら、ボランティアによる話題のMOMEDダンスやギターの弾き語り、毎月定期的なピアノ演奏会を実施した。

また、地元である伏屋町が主催する町民運動会へも積極的に参加した。

⑤ 苦情解決委員会

中立・公平を確保するため設置している地元の第三者委員で構成する「苦情解決委員会」を感染症拡大に注意しながら開催した。

〔開催状況〕 令和6年11月22日(金) 3案件（デイサービス案件含む）

令和7年3月21日(金) 3案件（同上）

⑥ ハラスメント対策

介護現場におけるパワハラ、セクハラ、マタハラ等各種ハラスメントの理解度を深めるため、職場研修等において事例研究を行い予防や対策等に向けた取組みを実施した。

⑦ その他の取組みの状況

令和5年度に一元化を実施した、大阪ワークセンターと歓の里の厨房業務について、円滑な運用を期したほか、両施設敷地内の立木竹の伐採整備についても、引き続き環境整備に努めた。

また、外壁防水工事や来所者用駐車場の拡幅、外灯の補修など、利用者等の快適性や安心・安全に配慮した工事等を実施した。

3 第2種社会福祉事業

(1) 特定相談支援事業及び障害児相談支援事業の経営

大阪ワーク相談支援センターにおいて、特定相談支援事業及び障害児相談支援事業を実施した。障がい者及び障がい児の自立した生活を支え、課題の解決や適切なサービス等の利用を図る計画の作成及びモニタリング等のきめ細かな支援を行った。

令和6年度は、担当職員の負担軽減など体制を整えつつ、既存利用者の支援充実に取り組んだ結果、新規計画が前年度より8件減った一方、更新計画は16件増の67件、モニタリングは123件増の339件となった。

引き続き、関係機関や支援学校等との連携を深めながら、相談支援を通じた大阪ワークセンターの利用者確保に努めていく。

【支援件数】

月 項目		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	実績	前年度 実績
		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
相談支援件数	障がい者	0	0	744	651	757	559	6,334	31
		570	865	773	436	480	499		
	障がい児	0	0	0	0	0	0	44	8
		0	0	4	12	15	13		
新規計画件数	障がい者	3	5	1	0	1	1	12	22
		0	0	1	0	0	0		
	障がい児	0	1	2	1	0	0	4	2
		0	0	0	0	0	0		
更新計画件数	障がい者	6	9	5	5	5	1	62	48
		7	5	9	6	3	1		
	障がい児	0	0	0	1	1	1	5	3
		0	0	0	2	0	0		
モニタリング 件数	障がい者	24	21	26	34	24	29	312	199
		27	17	25	30	21	34		
	障がい児	2	0	2	3	2	4	27	17
		2	3	1	2	3	3		
合 計 (相談支援件数を除く)		35	36	36	44	33	36	422	330
		36	25	36	40	27	38		

※令和7年6月より相談件数の計上を変更（利用計画の対象案件のみ計上→それ以外の案件も含む）

(2) 老人デイサービスセンター「飲の里デイサービスセンター」の経営

① 概 要

※ < >内は、前年度の実績

コロナ感染等に留意しつつ季節イベント等の工夫を凝らし、令和6年度は、延べ利用者数が前年度より264人増の4,891人、利用率が前年度より2.8ポイント増の88.2%となった。

なお、利用者の年間平均要介護度は、要支援が1.81<1.85>、要介護が2.28<1.86>となっており、介護度は高くなっている。

【飲の里デイサービスセンター利用者状況】 <定員18名>

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年度 実績
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利用者数(人)	39	40	39	40	41	40	489	497
	40	42	42	42	42	42		
1日当たりの平均利用者数(人)	15.8	15.4	15.5	15.6	15.7	16.1	15.9	15.4
	16.0	16.5	16.6	16.2	15.6	15.6		
延べ利用者数 (人)	410	416	387	421	424	403	4,891	4,627
	432	430	399	389	375	405		
利用率(%)	87.6	85.6	86.0	86.6	87.2	89.6	88.2	85.4
	88.9	91.9	92.4	90.0	86.8	86.5		

② 運営推進会議

有識者等の意見を聴き運営に反映させることを目的として、利用者及び家族、苦情解決委員、市職員、介護保険の有識者等で構成する「運営推進会議」については、感染症拡大に注意しながら開催した。

〔開催状況〕 令和6年11月22日(金)

令和7年3月21日(金)

(3) 老人短期入所事業「飲の里ショートステイ」の経営

① 概 要

令和5年7月から新たに飲の里において開始した併設型の老人短期入所事業では、利用者の心身の特性を踏まえ、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の支援及び機能訓練を行った。

利用者の心身機能の維持並びに利用者家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ることにより、地域のレスパイト機能も担っている。

令和6年度においては、ケアハウスの入居希望者(待機者)が、ショートステイを利用しながら飲の里デイサービス等を利用しており、ほぼ満床の実態となっている。

ショートステイ事業は、デイサービス等と連携させることで高い利用率を維持するとともに、デイサービス事業の収益にも寄与している。

【飲の里ショートステイ利用者状況】 《定員 1 名》

項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	前年度 実績
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
利用者数（人）	1	1	1	1	2	1	21	14
	2	2	3	3	2	2		
1 日当たりの平 均利用者数（人）	0.5 (0.8)	0.5 (0.9)	0.5 (0.9)	0.5 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (1.0)	0.5 (0.9)	0.9
	0.4 (0.9)	0.4 (0.9)	0.5 (0.9)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.7 (1.0)		
延べ利用者数 （人）	14 (23)	15 (28)	14 (27)	14 (28)	18 (29)	11 (28)	185 (339)	247
	11 (29)	13 (26)	17 (31)	19 (31)	18 (28)	21 (31)		
利用率（％）	46.7 (76.6)	48.4 (90.2)	46.7 (89.9)	45.2 (90.4)	58.1 (93.5)	36.7 (93.3)	50.7 (92.9)	89.7
	35.5 (93.5)	43.3 (86.7)	54.8 (100)	61.3 (100)	64.3 (100)	67.7 (100)		

※（ ）内は、自費サービスと介護保険利用の合計（制度上、ショートステイとデイサービス等は併用できないため、ショートステイは自費サービス扱いとなり、デイサービス利用日はショートステイ利用日に計上できない）。

（４）身体障害者福祉センターの経営

① 「国際障害者交流センター」の経営

※＜ ＞内は前年度実績

当協会が代表法人として設立したビッグ・アイ共働機構が、厚生労働省から「国連・障害者の十年記念施設運営事業」として国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）の管理運営を、大阪府から「障がい者文化芸術活動推進事業」を受託している。

令和 6 年度は、宿泊、多目的ホール、研修室のいずれもが、昨年度実績を上回った。特に、研修室は、昨年度に引き続き開設以来最高の利用数を更新した。通常期（平成 29～31 年度の 3 ヶ年度の平均）との比較では、宿泊は 94.7%、多目的ホールは 103.2%、研修室は 121.9% と、コロナ禍前とほぼ同水準かそれ以上の実績となった。

コロナ禍に大幅に減少した障がい者の利用数も回復し、宿泊 4,220 人、多目的ホール 48 団体、研修室 393 団体と、宿泊と研修室はビッグ・アイ開設以来最高の利用数となった。

また、平成 30 年度に設定した「障がい者宿泊利用率 30%以上」の目標については、支援学校や障がい者団体・グループ等の利用が引き続き堅調であったことから、令和 6 年度は 30.6%と、昨年度に続き達成することができた。

主催事業は、施設の基本理念に基づく事業として「国際交流・国際協力」、「障がい者の芸術・文化の発信」、「全ての障がい者の交流」、「大規模災害時の後方支援」の 4 つの事業を厚生労働省、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公立文化施設等から委託を受けて実施した。また、2025 大阪・関西万博への出演準備のための事業にも着手した。

なお、令和 6 年度は、事業を予定どおり実施できたことから、主催事業の参加者は 8,242 人＜5,829 人＞であった。

【利用実績】

◆宿泊施設（人数）

項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	前年度 実績
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
一般（人）	784	718	759	931	981	710	9,551	9,347
	737	713	928	764	709	817		
障がい者（人）	280	331	319	345	301	448	4,220	4,002
	657	656	236	155	118	374		
合計（人）	1,064	1,049	1,078	1,276	1,282	1,158	13,771	13,349
	1,394	1,369	1,164	919	827	1,191		
稼働率（％）	71.1	68.4	72.7	76.8	73.5	71.9	72.3	67.9
	79.4	81.8	75.0	61.3	63.2	71.7		
障がい者率（％）	26.3	31.6	29.6	27.0	23.5	38.7	30.6	30.0
	47.1	47.9	20.3	16.9	14.3	31.4		

※ 稼働率＝使用部屋数／35 室×365 日

◆多目的ホール（団体数）

項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	前年度 実績
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
一般（団体）	10	10	9	9	5	11	112	90
	10	15	6	3	12	12		
障がい者（団体）	1	0	1	1	4	5	48	52
	4	11	12	1	3	5		
合計（団体）	11	10	10	10	9	16	160	142
	14	26	18	4	15	17		
利用人数（人）	6,598	5,614	5,657	4,990	605	6,865	65,243	47,319
	5,340	9,725	6,200	1,340	5,638	6,671		
稼働率（％）	28.9	22.6	22.2	19.4	24.7	32.2	31.7	28.2
	31.2	61.1	51.6	8.6	38.1	40.9		
障がい者率（％）	9.1	0	10.0	10.0	44.4	31.3	30.0	36.6
	28.6	42.3	66.7	25.0	20.0	29.4		

※ 稼働率＝使用件数／3 コマ×365 日、利用人数は利用者の申告数

◆研修室（団体数）

項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	前年度 実績
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
一般（団体）	81	89	91	78	65	76	897	868
	91	66	70	53	59	78		
障がい者（団体）	15	20	33	37	33	26	393	364
	43	59	33	34	44	16		
合計（団体）	96	96	124	115	98	102	1,290	1,232
	134	125	103	87	103	94		
利用人数（人）	5,174	5,378	7,685	6,715	5,361	6,591	75,263	75,766
	6,345	5,493	7,489	6,397	7,264	5,371		
稼働率（％）	58.1	56.3	69.6	65.9	64.5	65.2	64.5	59.6
	74.9	73.7	63.4	54.1	73.8	55.9		
障がい者率（％）	15.6	18.3	26.6	32.2	33.7	25.5	30.5	29.5
	32.1	47.2	32.0	39.1	42.7	17.0		

※ 稼働率＝使用件数／3 室×3 コマ×365 日、利用人数は利用者の申告数

◆事業参加者数

事業 カテゴリー	参加対象	国費事業	大阪府	日本博	自主事業	計	構成率
1. 国際交流事業	障がい者	36				36	50.0%
	一般	36				36	50.0%
	観覧者数等	452				452	
	計	524	0	0	0	524	
2. 大規模災害時の 後方支援事業	障がい者					0	
	一般					0	
	計	0	0	0	0	0	
3. 芸術・文化活動 推進・支援事業	障がい者			2,940	125	3,065	78.1%
	一般			742	118	860	21.9%
	計	0	0	3,682	243	3,925	
4. 障がい関係福祉 情報等提供事業	障がい者			65		65	65.0%
	一般			35		35	35.0%
	計	0	0	100	0	100	
5. 大阪府障がい者 文化芸術活動推 進事業	障がい者		418			418	36.0%
	一般		743			743	64.0%
	観覧者数等		2,532			2,532	
	計	0	3,693	0	0	3,693	
6. その他 共催・協力事業	障がい者					0	
	一般					0	
	計	0	0	0	0	0	
合 計	障がい者	36	418	3,005	125	3,584	68.2%
	一般	36	743	777	118	1,674	31.8%
	観覧者数等	452	2,532	0	0	2,984	
	計	524	3,693	3,782	243	8,242	

※大規模災害時の後方支援事業はオンライン視聴のみ（2,858回）

※障がい者、一般の数は事前申込等で判定できる数

※観覧者数等は、不特定多数の来場者のため障がいの有無は判別不可

※障がい者参加率は障がい者の有無が判別できる事業のみで算出

（５）視聴覚障害者情報提供施設の経営

① 「大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター」の経営

「大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター運営事業体」の代表法人として、同センターの運営管理業務を行った。

会議室利用状況（３月末）：1,359回（うち指定管理業務930回）

また、同事業体として令和７年度以降の指定管理者に応募し、大阪府から、指定管理者に指定された。

[指定管理期間] 令和７年４月１日から令和１２年３月３１日

[公募期間] 令和６年８月２２日～１０月２日

[指定年月日] 令和６年１２月２６日

② 盲ろう者等社会参加支援センター事業の実施

(ア) 大阪府障がい者社会参加推進協議会の開催

[開催日時] 令和7年2月12日(水)

[開催場所] 大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター

[参加団体] 加盟12団体

(イ) レクリエーション事業

障がい者に対して、見聞を広める機会と交流の場を提供するとともに社会参加を促進するため、福祉バス(リフト付)及び観光バスを利用してレクリエーション行事を年3回実施し、障がい者の福祉の増進に努めた。

- ・第1回：令和6年7月14日(日)

舞子プロムナードと淡路花さじき・たこせんべいの里 参加者86人

- ・第2回：令和6年12月1日(日)

ヤマサ蒲鉾工場見学、太陽公園、道の駅みき 参加者104人

- ・第3回：令和7年3月16日(日)

京都水族館、京都国立博物館、おたべ本館&atelier 京ばあむ 参加者103人

(ウ) 「大阪府障がい者110番事業」

※ < >内は前年度の実績

障がい者やその家族等からの電話や来所等による相談を受け、大阪府や市町村、保健所等関係機関との連携を図りながら、障がい者の人権や権利の擁護に努めた。

令和6年度の相談件数は、362件<461件>であった。主な相談は日常生活に関すること187件<225件>、福祉サービスに関すること98件<109件>、医療に関すること9件<13件>であった。

(エ) パソコン等電子機器活用訓練

パソコン等機器は、日々の生活に必要な情報を得る効果的な手段であることから、盲ろう者を対象に、パソコン等電子機器活用訓練を実施した。

対 象	実施期間	場 所	延べ利用 盲ろう者	実施時間
在宅等の 盲ろう者	令和6年4月 ～ 令和7年3月	大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター	134人	161.0時間
		(講習)	116人	143.0時間
		(フリー)	18人	18.0時間
		盲ろう者宅	17人	34.0時間

(オ) バスツアー

盲ろう者の余暇活動の充実を通じて盲ろう者の体験の機会を広げるとともに、日常生活における社会参加を促進するため、バスツアーを実施した。

- ・令和6年7月13日(土) 奈良金魚ミュージアムと平城宮跡歴史公園 17人

- ・令和6年12月21日(土) 明石防災センターと橋の科学館 16人

- ・令和7年2月8日(土) 滋賀ラコリーナ近江八幡と滋賀野洲いちご狩り 19人

(カ) 日常生活訓練

盲ろう者の日常生活の基礎となる生活訓練に関する講習会等を実施した。

- ・ 福井県・若狭湾方面宿泊体験 令和7年2月20日(木)～21日(金) 14人
- ・ らくらくツール 令和6年7月16日(火)～11月18日(月) 全19回 76人
- ・ 白杖訓練 令和6年9月3日(火)・6日(金) 全2回 10人
- ・ マクラメ作り体験 令和6年9月27日(金) 8人

(キ) 盲ろう者と通訳・介助者との交流会

盲ろう者と通訳・介助者とのコミュニケーションを強化するため、盲ろう者通訳・介助者養成研修終了後に実施した。

[実施日] 令和7年3月14日(金)

[参加者数] 110人

(ク) 盲ろう者向けパソコン指導者サポーター養成・現任研修

盲ろう者がパソコンを習得できるよう、盲ろう者のパソコン訓練をサポートする指導者をサポーターとして現在登録しており、盲ろう者向けパソコン指導を引き続き実践していくための講習会及び意見交換会を実施した。

- ・ パソコン指導者サポーター養成研修 令和7年3月25日(火) 参加者4人
- ・ パソコン指導者サポーター現任研修 令和7年3月24日(月)、3月25日(火)
3月27日(火) 参加者7人

③ 盲ろう者通訳・介助者派遣事業の実施

※ < >内は前年度の実績

視覚と聴覚に重複した障がいがある盲ろう者のコミュニケーション支援と安全な移動の介助を行うため、専門的知識と技能を修得した通訳・介助者を派遣し、盲ろう者の自立と社会参加の促進に努めた。

- ・ 盲ろう者の登録状況(令和7年3月末現在) 115人 <112人>
- ・ 通訳・介助者の登録状況(令和7年3月末現在) 281人 <297人>
- ・ 通訳・介助者の利用及び派遣状況

大阪府内に居住する視覚及び聴覚に障がいがある身体障害者手帳(1級又は2級)を所持する盲ろう者で、大阪府に利用登録をしている者に1日8時間、年間1,080時間を限度として、通訳・介助者を派遣した。

【盲ろう者通訳・介助者派遣事業の実績】

※ ()内は1ヶ月平均

年 度	令和6年度		令和5年度	
利用者数(人)	930	(77.5)	872	(72.7)
通訳・介助者の派遣人数(人)	1,960	(163.3)	1,883	(156.9)
通訳・介助者の派遣時間数(時間)	38,297	(3,191.4)	38,104	(3,175.3)
派遣件数(件)	11,301	(941.8)	11,034	(919.5)

④ 盲ろう者通訳・介助者確保事業の実施

※ ＜ ＞内は前年度の実績

(ア) 養成研修事業の開催

盲ろう者の自立と社会参加を促進するため、必要な知識・技能を有する通訳・介助者を養成する盲ろう者通訳・介助者養成研修を実施した。

[研修実施期間] 令和6年9月17日(火)～令和7年3月7日(金)までの19日間
計98時間

[研修内容] 盲ろう者のコミュニケーション論、盲ろう者通訳・介助論、移動
介護技術、盲ろう者通訳・介助実習等

[申込・修了者] 25人・19人 ＜26人・19人＞

(イ) 現任研修事業の開催

盲ろう者通訳・介助者の資質向上を図り、盲ろう者通訳・介助者派遣事業を円滑に運営するため、通訳・介助者の現任研修を開催した。

[研修期間] 令和6年9月2日(月)、9月6日(金) 小テスト実施

[研修内容] 障がい者の人権、福祉サービス従事者の職業倫理、当事者による講義

[受講者] 194人 ＜36人＞

[修了者] 161人（受講免除者54人）＜30人＞

⑤ 大阪府 I T ステーション事業

※ ＜ ＞内は前年度の実績

「大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター」の「盲ろう者等社会参加支援センター事業」として、大阪府立夕陽丘高等職業技術専門校内において実施している。

(ア) 大阪府 I T ステーション就労促進事業

i 障がい者総合支援業務

- ・問合せ（相談受付含む）数 549人 ＜507人＞
- ・就労支援 I T 講習・訓練受講者数 41人 ＜75人＞
- ・企業等との連携件数 136件 ＜171件＞
- ・企業等への就職者数 27人 ＜45人＞

ii 障がい者就労支援 I T 講習・訓練業務

就労支援等 I T 講習は、障がい者の個々の習得レベルに応じて、I T スキル習得ができるよう、スタート・基本・実践の3段階の講習設定を行い、就労に役立つ講習を実施した。

また、就職対策講習として、受講者の職業準備性を高めるメタ認知トレーニング、ソーシャルスキルトレーニングなどの講習を実施した。

在宅就労支援訓練については、在宅就労を希望する障がい者に自宅のパソコンから e ラーニング方式で行う訓練として、データ入力・編集訓練、音声起稿訓練、Web デザイン制作訓練の3訓練を実施した。

- ・ I T 講習修了者数 107人 ＜176人＞（延べ人数）
- ・就職対策講習受講者 10人 ＜17人＞
- ・在宅就労支援訓練受講者 2人 ＜6人＞

iii 障がい者 I T 総合推進業務

- ・大阪府障がい者 I T サポーター養成研修
大阪府がパソコンボランティアを I T サポーターとして養成する研修会を開催した。
(目標 3 回以上の開催、15 人以上の修了者) 修了者数 21 人 <16 人>
- ・ I T サポーター派遣事業 (地域の IT 講習への講師等としての派遣)
派遣箇所 11 市町 <20 市町>
- ・在宅重度障がい者 I T 支援 (目標 10 件以上)
移動が困難でかつ最新の支援機器を利用することにより意思疎通が可能となる重度障がい者に対して I T 支援機器等の利用相談や検証、操作指導として在宅等へ I T サポーターの派遣を行うなどの I T 支援を実施した。
支援活動 27 件<18 件> 支援相談 25 件<3 件> 合計 52 件<21 件>
- ・ I T ステーションからの情報発信等
 - ◇ホームページの公開
アクセス数 19,302 件 <14,217 件>
ユーザー数 14,589 件 <10,991 件>
 - ◇メールマガジンの発行
障がい者、その家族、 I T サポーターその他支援者等に毎月末 1 回、 I T ステーションの事業内容等の公開と理解のために発行した。
発行部数 14,277 部 <13,944 部>
 - ◇ e ラーニング利用件数 3,231 件 <2,052 件>

(6) 生計困難者に対する相談支援事業の経営 (生活困窮者レスキュー事業)

経済的な困窮により医療、介護等必要なサービスの利用が阻害されている者で、生活保護等既存制度では対応できない者に対して、必要なサービスを利用するための費用等の全部又は一部を支援 (経済的支援) する本事業を、当法人の地域における公益的な取組みとして、大阪府社会福祉協議会と連携しながら進めている。

令和 6 年度は、4 月から 1 件のケースを担当し、就労支援を行った。また、社会福祉法人大阪府社会福祉事業団光明荘が主催するこどもの居場所づくり支援体制強化事業の実施場所として、6 月から週 1 回「あいホール」を無償貸与し、こどもの居場所づくりに貢献した。

4 公益事業

(1) 居宅介護支援事業

① 居宅介護支援事業所「飲の里ケアプランセンター」の管理・運営

(ア) 概要

令和 6 年度は、常勤専従の主任ケアマネジャー 2 名、常勤専従のケアマネジャー 1 名の 3 名体制で、特定事業所加算 (Ⅲ) <要介護 1 件につき 300 単位/月加算> を取得し、指定居宅サービス事業者等との連絡調整、利用者個人に応じた支援を行った。

当該居宅要介護者が通所介護、施設への入所を要する場合にあっては、主に飲の里の施設等の紹介を行うとともに、和泉市役所、堺市南区役所、地域包括支援センター、開業医、各事業所などとの緊密な連携を通じた利用者の紹介により、利用者の増加に努めた。

【飲の里ケアプランセンター利用状況】

単位：人

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計	前年度 実績
		10月	11月	12月	1月	2月	3月		
介護 認定	要支援	63	64	57	55	55	55	686	732
		58	57	59	54	55	54		
	要介護	85	85	87	81	92	96	1,042	1,115
		91	92	85	86	80	82		
認定調査		10	6	10	10	10	9	110	73
		10	7	13	8	13	4		
合 計		158	155	154	146	157	160	1,838	1,920
		159	156	157	148	148	140		

（イ）地域連携

3（6）に記載の生計困難者に対する相談支援事業（生活困窮者レスキュー事業）を地域連携の事業と位置付け取り組んでいるほか、下記（ウ）に記載の研修等を地域と連携し実施している。

（ウ）「医療と介護の地域連携会議」を開催

平成30年4月に厚生労働省の介護報酬改定におけるサービスごとの改定事項により、特定事業所加算算定要件（2法人と共同開催）が追記され、「介護関係者と医療関係者」間の地域連携会議を開催し、飲の里ケアプランセンター周辺地域の「医療と介護の連携」を構築していく役割を担った。

- ・共同開催研修 毎月1回実施（和泉市第3圏域）
- ・地域連携会議 第1回 8月22日（木）（虐待について基本と事例紹介）
第2回 2月19日（水）（誤嚥性肺炎の予防について）

（2）障がい者啓発事業

①「第21回共に生きる障がい者展」の開催

大阪府及び大阪府教育委員会と共催し、「第21回共に生きる障がい者展」を令和6年11月16日（土）・17日（日）の2日間にわたりビッグ・アイにおいて開催し、その模様を後日動画配信することにより、障がい者福祉などに関する啓発を行った。併せて、「第45回障がい者作品展」を両日開催した。

（3）障がい者・高齢者自立支援事業

① ケアハウス・OSAKA飲の里自費サービス事業

入居者が自立した生活を続けられるよう、入居者や家族の希望、要望を踏まえ、介護保険サービスの範囲外で自費サービス（服薬管理、生活ケア、入浴回数を増やす等）により、月平均28人に生活介護サービスを提供した。

令和6年度においては、3（3）に記載のとおり、デイサービスセンター利用者に対して、自費サービスとしてショートステイを提供した。

② 障がい者ホームヘルパー養成事業

※ ＜ ＞内は前年度の実績

障がい者の多様化するニーズに対応した適切なホームヘルプサービスを提供するため、現に就労している訪問介護員（２級）養成研修修了者で、障害者総合支援法による居宅介護従事者として活動を希望する者を対象に研修を実施した。

〔研修期間〕 令和６年６月１４日（金）～７月５日（金）の４９時間

〔研修内容〕 障がい者ホームヘルパーが行う業務に関する知識・技術の習得

〔受講者〕 ４７人 ＜２７人＞

〔修了者〕 ４４人 ＜２３人＞

③ 企業等への盲ろう者通訳・介助者派遣事業

企業等が府内の盲ろう者に対して行う必要かつ合理的な配慮のため通訳・介助者が必要な場合に、企業等からの依頼により大阪府に登録している通訳・介助者を派遣した。

〔派遣件数〕 ４件 ＜１件＞

〔派遣時間〕 １５時間＜１６時間＞

（４）関係機関連携協力事業

当法人の役員が大阪府の関係委員会等に委員として参画し、障がい者福祉の向上に寄与するとともに、一般財団法人大阪府地域福祉推進財団、社会福祉法人大阪府母子寡婦福祉連合会、一般財団法人大阪民間社会福祉事業従事者共済会等に理事、評議員又は監事を派遣するなど、各団体との連携・協力を努めた。

５ 収益事業

（１）自動販売機設置事業

大阪ワークセンター、ケアハウス・ＯＳＡＫＡ歓の里、大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）、大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター、大阪府ＩＴステーションに自動販売機を設置し、その収益の一部を社会福祉事業等に活用した。

６ 評議員会及び理事会の開催

（１）評議員会の開催

① 定時評議員会

日 時：令和６年６月１９日（水）

場 所：大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 会議室

出席者：評議員７名、理事６名、監事２名

議 案：・令和５年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会の決算について

・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会定款の変更について

・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会評議員等報酬等規程の一部改正について

・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会理事の選任について

報 告：・令和５年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会の事業報告について

・令和６年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会の事業計画及び収支予算について

(2) 理事会の開催

① 第1回理事会

日 時：令和6年6月3日（月）

場 所：大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 会議室

出席者：理事6名、監事2名

議 案：・令和5年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会の事業報告について
・令和5年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会の決算について
・令和5年度「国際障害者交流センター」の事業報告及び決算について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会定款の変更について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会評議員等報酬等規程の一部改正について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会運営協議会運営規程の廃止について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会理事候補者の選出について
・令和6年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会定時評議員会の開催について

報 告：・令和5年度資金運用状況について

② 第2回理事会

日 時：令和6年11月14日（木）

場 所：大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 会議室

出席者：理事6名、監事2名

議 案：・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会職員給与規程の一部改正について
・障害者支援施設「大阪ワークセンター」において実施する事業の変更及びこれに伴う運営規程の一部改正について

報 告：・令和6年度上半期業務執行状況報告について

- ・令和6年度中間事業報告
- ・令和6年度中間決算

③ 第3回理事会

日 時：令和7年3月26日（水）

場 所：大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター 会議室

出席者：理事6名、監事2名

議 案：・令和6年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会資金収支補正予算について
・令和7年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会事業計画について
・令和7年度社会福祉法人大阪障害者自立支援協会資金収支予算について
・令和7年度国際障害者交流センターの事業計画及び予算について
・令和7年度資金運用計画について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会評議員選任委員会委員の選任及び委員会の開催について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会評議員候補者の推薦について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会諸規程の改正について
・社会福祉法人大阪障害者自立支援協会役員等賠償責任保険契約について

報 告：・令和6年度下半期理事長、常務理事業務執行状況報告について

④ 臨時理事会

理事会の決議があったものとみなされる日：令和6年9月11日(水)

決議事項を提案した理事：理事長 西口 禎二

理事会の決議があったものとみなされる事項の内容：

大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター指定管理者募集への応募について

7 研修の実施状況

(1) 人権研修

- ① 日 時：令和7年7月25日(木)、8月22日(木)、9月26日(木)
場 所：国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）
参加者：延べ60名
テーマ：差別をなくすためには（愼英弘ビッグ・アイ館長による講義）
- ② 日 時：令和6年5月15日(水)
場 所：大阪ワークセンター
参加者：11名
テーマ：職員倫理綱領及び行動規範、人権意識の向上について
- ③ 日 時：令和6年9月2日(月)
場 所：大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター
参加者：164名（オンライン視聴含む）
テーマ：障がい者の人権
- ④ 日 時：令和6年9月27日(金)
場 所：大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター
参加者：29名
テーマ：通訳介助のあり方（盲ろう者の人権について）

(2) 虐待防止研修

- ① 日 時：令和6年6月19日(水)、10月16日(水)、11月20日(水)
場 所：大阪ワークセンター
参加者：延べ32名
テーマ：虐待事例(新聞報道)の検討、虐待の定義・特徴、職員セルフチェック等
- ② 日 時：令和6年9月25日(水)、令和7年2月26日(水)
場 所：歓の里
参加者：延べ31名
テーマ：身体拘束ゼロについて

(3) 安全・衛生に関する研修

- ① 日 時：令和6年6月28日(金)
場 所：歓の里
参加者：17名
テーマ：食中毒について
- ② 日 時：令和6年8月22日(水)
場 所：大阪ワークセンター
参加者：9名
テーマ：食中毒予防について（衛生管理のポイント確認等）
- ③ 日 時：令和6年9月25日(水)、令和7年3月26日(水)
場 所：歓の里
参加者：延べ36名
テーマ：事故報告、ヒヤリハットまとめ

- ④ 日 時：令和6年11月8日（金）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：14名
テーマ：消防設備勉強会（非常放送設備・複合受信機の操作等）
- ⑤ 日 時：令和6年12月18日（水）、令和7年2月13日（木）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：延べ24名
テーマ：感染症対策（サラヤ㈱による手指衛生勉強会、感染者対応の確認・部分訓練等）
- ⑥ 日 時：令和6年2月20日（火）、21日（水）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：17名
テーマ：A E D講習

（４）組織マネジメント・ハラスメント防止研修

- ① 日 時：令和6年4月17日（水）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：12名
テーマ：B C P（業務継続計画）について
- ② 日 時：令和6年5月17日（金）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：12名
テーマ：理事長講義、コミュニケーション・組織力の構築等について
- ③ 日 時：令和6年10月23日（水）、令和6年12月25日（水）
場 所：歓の里
参加者：延べ37名
テーマ：感染症B C P、災害用B C Pについて
- ④ 日 時：令和7年2月19日（水）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：15名
テーマ：B C P部分訓練（感染症対策シミュレーション、災害対策シミュレーション）
- ⑤ 日 時：令和7年3月19日（水）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：14名
テーマ：障害者福祉の現場におけるハラスメントに関する研修（厚労省HP動画より）
- ⑥ 日 時：令和7年3月26日（水）
場 所：歓の里
参加者：19名
テーマ：カスタマーハラスメントについて

（５）個人情報保護に関する研修

- ① 日 時：令和6年9月18日（水）
場 所：大阪ワークセンター
参加者：11名
テーマ：個人情報の取得・利用・保管・管理、保有個人データの開示請求等について
- ② 日 時：令和6年12月25日（水）
場 所：歓の里
参加者：19名
テーマ：個人情報保護

(6) 知識・技能向上研修

- ① 日 時：令和 6 年 5 月 22 日(水)、7 月 8 (月)～11 日(木)、7 月 24 日(水)、8 月 28 日(水)、11 月 27 日(水)、令和 7 年 3 月 29 日(土)
場 所：歓の里
参加者：延べ76名
テーマ：介護手技等（バルーンカテーテル利用者の介護、おむつの巻き方等）
介護知識（ヒートショック、認知症、服薬介助について）
専門知識(認知症高齢者の心理とケア、抗アミロイドβ抗体療法での認知症診療)
- ② 日 時：令和 7 年 1 月 28 日(火)
場 所：I T ステーション
参加者：12名
テーマ：作業療法士の行う I C T 活用支援について

8 事業継続計画の点検

法人本部及び各施設において令和 5 年度に策定・整備した事業継続計画について、内容を点検し、更新を行った。

9 社会福祉法人大阪障害者自立支援協会役員等賠償責任保険契約の締結について

・被保険者

当法人の理事、監事、評議員、管理職従業員（施設長等）。
初年度契約の保険期間の初日以降に退任した役員等及び保険期間中に新たに選任された役員等も含む。

・補償対象事故と補償範囲

被保険者の職務の執行に関し保険期間中に提起された損害賠償請求等に起因して、被保険者が被る損害（損害賠償金及び争訴費用）を補償。

但し、被保険者の背信行為もしくは犯罪行為又は故意による法令違反等、保険対象にならない場合がある。

・支払い限度額 300,000 千円

事業報告書の附属明細書

社会福祉法第 45 条の 27 第 2 項並びに同規則第 2 条の 25 第 3 項に基づく事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項がないので作成しない。